



# 学内広報



2002. 2. 27  
東京大学広報委員会

## アマルティア・セン博士に東京大学名誉博士称号授与



(2 ページに関連記事)

### 目次

一般ニュース .....	2	部局ニュース .....	5
アマルティア・セン博士に東京大学名誉博士称号授与、総長の海外出張、評議会（2月19日（火））承認事項、総長特任補佐に関する内規の制定、東京大学評議会規則及び東京大学評議会内規の一部改正、東京大学キャンパス計画委員会規則の制定、交通問題委員会規則の一部改正、東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正、大学院工学系研究科規則の一部改正、大学院人文社会系研究科規則の一部改正、大学院学則の一部改正、大学院制度検討小委員会要項の一部改正、財務企画委員会の審議結果、評議会（2月19日（火））報告事項、大学間学術交流協定		退官教官の最終講義、十倉好紀教授が「強相関電子物質の研究」で朝日賞を受賞、五神真教授が「非線形レーザー分光を用いた励起子の量子統計性の研究」で日本IBM科学賞を受賞、史料編さん所の特別展入場者は6万4000人、生産技術研究所で平成13年度外国人研究者・留学生との懇談会が開かれる、工学部武田先端知ビル地点の発掘調査	
		掲示板 .....	9
		東京大学学位論文論題データベースの統合について、保健センター業務日程の変更について	
		窓（弥生町の歴史） .....	10
		事務連絡（人事異動（教官、職員）） .....	11
		淡青評論「近代医科学記念館雑感」 .....	12

## ≡ 一般ニュース ≡

## アマルティア・セン博士に東京大学名誉博士称号授与

昨年12月に創設された東京大学名誉博士称号授与制度に基づき、本年2月19日に名誉博士称号授与式が経済学部隣接する総合研究棟で行われ、名誉博士第1号として、ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ学長のアマルティア・セン博士に称号が授与された。

セン博士は、インドの生まれで9歳の時にベンガル大飢饉を目のあたりにし、世界を変えるために経済学を志した。あるべき経済システムを追求するために社会的選択理論を再構築し、不平等や貧困を評価するための指標や福祉水準を判断するための概念を提唱した。市場主義経済のもたらす経済的利益とその限界を巡って深刻な問題が生じている現在、経済社会と人間の尊厳という根源的な問題を理解する上でセン博士は大変有効な視座を提供している。

授与式では、バンラデッシュ特命全権大使、インド特命全権臨時代理大使、英国公使等を始め、200名以上の参列者が参加する中、セン博士の功績書が朗読された後、総長から名誉博士記の授与及び記念品が贈呈された。

授与式に引き続き、「文明は衝突するのか：問いを問い直す」と題したセン博士の記念講演が行われ、固定的な分類では捉え切れない多様なアイデンティティーこそが、世界の調和に希望を与えてくれるとして、世界の紛争を「文明の衝突」の論理で捉える昨今の論調を批判した。

また、記念講演会終了後には、カクテルパーティーが開催された。

翌日、セン博士は、「東京大学滞在中には、最大のもてなしを受けてありがとうございました。今後、東京大学とのお付き合いが一層深まることを願っています。」というメッセージを残し、無事帰国の途につかれた。



## 総長の海外出張

- 1 平成14年3月3日(日)～3月4日(月)  
ソウル大学入学式出席のため、ソウル(大韓民国)へ
- 2 平成14年3月19日(火)～3月22日(金)  
AGS国際諮問役員会出席のため、マイアミ(米国)へ

## 評議会(2月19日(火))承認事項

### 総長特任補佐に関する内規の制定

国立学校設置法施行規則(文部省令第11号)の一部が改正され、改正後の同法第20条11の規定により、円滑な大学運営に資するため、学長を補佐する体制の整備に努めることとなった。また「東京大学の経営に関する懇談会最終報告」(平成11年9月19日評議会)の提言のうち、総長補佐機能の整備・見直しに関し、全学的な調整を要する事項については、それぞれに適した柔軟な仕組みを作るとされている。これらを踏まえて、この内規を定めたものである。

#### 総長特任補佐に関する内規

- 第1条 総長の下に総長特任補佐を置く。
  - 第2条 総長特任補佐は、総長を補佐して、全学に係わる重要事項のうち、特に命ぜられたものの処理に当たる。
  - 第3条 総長特任補佐は、東京大学の教授のうちから総長が委嘱する。
  - 2 総長は、前項の委嘱をしたときは、評議会に報告するものとする。
  - 第4条 総長特任補佐の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 附 則  
この内規は、平成14年4月1日から施行する。

### 東京大学評議会規則及び東京大学評議会内規の一部改正

「評議会構成員等に関する検討委員会報告(座長:小間副学長)」(平成14年1月22日評議会)を踏まえ、センター長の代表者を評議会構成員とみなし、センター長の代表者の評議会出席、評議会における議決への参加等について明文化するため、所要の改正が行われた。また、これに伴う了解事項が設けられ、併せて現行の「センター長代表者の評議会出席に関する規程」が廃止された。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 センター長代表者の評議会出席に関する規程(平成10年3月17日東大規則第56号)は、廃止する。

## 東京大学キャンパス計画委員会規則の制定

全学委員会の再編見直しに関し、先ごろ全学委員会再編WGにおいて報告書を取りまとめ、その報告書を踏まえて、キャンパス関係委員会を再編統合するため、この規則が制定された。

### 東京大学キャンパス計画委員会規則

#### (設置)

第1条 東京大学に、東京大学キャンパス計画委員会(以下「委員会」という。)を置く。

#### (定義)

第2条 この規則において「本郷地区」とは本郷、浅野及び弥生の各キャンパスをいい、「駒場地区」とは駒場第一及び駒場第二の各キャンパスをいい、「柏地区」とは柏キャンパスをいう。

#### (任務)

第3条 委員会は、総長の管理の下に、次に掲げる事項について調査、立案、連絡及び審議する。

- (1) 東京大学キャンパス全体についての用地の選定及び利用に関する長期総合計画
- (2) 新キャンパスの確保及び現有キャンパスの整理に関する基本計画
- (3) 現有及び新キャンパスの利用に関する基本計画
- (4) 現有施設の点検・評価及び利用に関する基本計画
- (5) その他用地及び施設に関する重要事項

#### (組織)

第4条 委員会は、委員長、副委員長及び委員若干名をもって組織する。

#### (委員長及び副委員長)

第5条 委員長は、総長が指名する副学長をもって充てる。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

#### (委員)

第6条 委員は、次の各号に掲げる者に総長が委嘱する。

- (1) 別表第1左欄で定める各地区の大学院の研究科(情報学環を含む。以下同じ。)及び附置研究所(先端科学技術研究センターを含む。以下同じ。)の長のうち、同表右欄に定める数の者
- (2) 別表第2に定める部局の長
- (3) 附属図書館長及び医学部附属病院長
- (4) 総長補佐若干名
- (5) 総長が必要と認めた専門的知識を有する東京大学の教授又は助教授若干名
- (6) 事務局長、企画調整官及び事務局の各部長

2 前項第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

#### (キャンパス計画室)

第7条 委員会は、所掌事項に関し、具体的な計画、立案及び必要な事項の調査をさせるため、専門的知識を有する東京大学の教職員若干名をもって組織するキャンパス計画室を置く。

2 キャンパス計画室に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(地区部会)

第8条 委員会は、各地区のキャンパス利用に関する基本計画に基づき、その具体的な整備計画を策定・実施させるため、第2条に定める各地区にそれぞれ、次の各号に掲げる部局の大学院の研究科及び附置研究所の教授及び助教授並びに、学内共同教育研究施設及び全国共同利用施設の教授及び助教授のうちから若干名、並びに東京大学の教職員のうちから若干名をもって組織する地区部会を置く。第6条第1号に掲げる者は、当然に、それぞれの地区部会の委員となるものとする。

- (1) 当該地区に主たる施設を置く部局
- (2) 当該地区への主たる施設の移転が「東京大学キャンパス計画の概要」において認められている部局
- (3) その他委員会が必要と認めた部局

2 委員会は、前項に掲げるもののほか、必要に応じて、第2条に掲げる以外のキャンパスに臨時部会を置くことができる。

3 前2項に定める地区部会及び臨時部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(臨時委員)

第9条 委員会は、必要があるときは、臨時委員を置くことができる。

(評議会への提案)

第10条 委員長は、評議会に委員会の審議結果を提案するものとする。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、事務局施設部整備計画課において処理する。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。

附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規則は、廃止する。
  - (1) 東京大学キャンパス委員会規則（昭和51年6月15日制定）
  - (2) キャンパス総合計画委員会規則（平成5年6月8日制定）
  - (3) 本郷地区キャンパス整備委員会規則（平成5年6月8日制定）
  - (4) 駒場地区キャンパス整備委員会規則（平成5年6月8日制定）
  - (5) 柏地区キャンパス整備委員会規則（平成5年6月8日制定）
  - (6) 検見川キャンパス整備委員会規則（平成5年6月8日制定）
  - (7) 東京大学キャンパス計画室規則（平成4年4月1日制定）

別表第1（第6条関係）

地 区 名	委員数
本 郷 地 区	4
駒 場 地 区	2
柏 地 区	2

別表第2（第6条関係）

医科学研究所長 海洋研究所長
-------------------

## 交通問題委員会規則の一部改正

全学委員会の整理・再編の一環として交通問題委員会は審議事項を拡大し、自転車、歩行者等に関する対策等も扱うことになったため、委員会名称を「交通対策委員会」に改めるとともに字句の修正及び関連規則の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

## 東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正

大学院経済学研究科、大学院工学系研究科、医科学研究所、大学院医学系研究科、医学部、大学院農学生命科学研究科、東洋文化研究所、社会情報研究所、生産技術研究所及び国際・産学共同研究センターでは、既に導入している教員の任期制の教育研究組織の見直しに伴う所要の改正、また、大学院教育学研究科、地震研究所、物性研究所及び海洋研究所では、新たに教員の任期制を導入する教育研究組織を定めることとするため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行し、同日以降に任用される者について適用する。

## 大学院工学系研究科規則の一部改正

平成14年度から金属工学専攻及び材料学専攻がマテリアル工学専攻として改組されることに伴い、所要の改正が行われた。

附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 この改正に伴う経過措置は、別に定める。

## 大学院人文社会系研究科規則の一部改正

平成14年度から韓国朝鮮文化研究専攻を設置するにあたり所要の整備を行い、併せて人文社会系諸分野の学問内容の多様化に対応して授業科目内容をより充実かつ明確にするため、所要の改正が行われた。

### 附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

## 大学院学則の一部改正

大学院の入学資格に関する学校教育法施行規則の一部改正（平成13年文部科学省令第80号）並びに平成14年度から人文社会系研究科に韓国朝鮮文化研究専攻が設置されること、工学系研究科の金属工学専攻及び材料学専攻がマテリアル工学専攻として改組されることに伴い、所要の改正が行われた。

### 附 則

（施行期日）

第1条 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

（工学系研究科の経過措置）

第2条 平成14年3月31日以前に工学系研究科金属工学専攻又は材料学専攻の修士課程又は博士課程に入学し、引き続き在学する者については、なお従前の例による。

2 平成14年3月31日以前に工学系研究科金属工学専攻又は材料学専攻の修士課程又は博士課程に入学した大学院研究生で、引き続き在学する者については、前項の規定を準用する。

## 大学院制度検討小委員会要項の一部改正

学生関係委員会の再編により、大学院学生委員会規程が廃止されたことに伴い、所要の改正が行われた。

### 附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

## 財務企画委員会の審議結果

財務企画委員会（座長：宮島副学長）において審議した、「平成14年度以降の教育研究基盤校費の配分」及び「全学共通経費の執行計画」の結果に基づく「提案事項」が承認された。

## 評議会（2月19日(火)）報告事項

### 大学間学術交流協定

・東京大学と浙江大学との間における学術交流に関する

大学間協定の締結

- ・東京大学とチリ大学との間における学術交流に関する大学間協定の締結
- ・東京大学とフラウンホーファー研究機構との間における学術交流に関する大学間協定の締結

## ≪ 部局ニュース ≫

### 退官教官の最終講義

このたび、本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

#### 大学院医学系研究科・医学部

高橋 泰子 教授 3月19日(火)15:00~16:30

（健康科学・看護学専攻 看護学講座 看護「感染管理と看護—Evidenceに基づいた実践へ」  
医学部本館大講堂  
体系・機能学分野）

金澤 一郎 教授 3月20日(水)15:00~16:30

（脳神経医学専攻 臨床神経精神医学講座「ハンチントン病と歩んだ30年」  
医学部本館大講堂  
神経内科学分野）

#### 大学院工学系研究科・工学部

玉井 信行 教授 3月22日(金)15:00~17:00

（社会基盤工学専攻）農学部弥生講堂  
「河川計画と生態環境」

石谷 久 教授 3月20日(水)10:00~12:00

（地球システム工学専攻）山上会館大会議室  
「システム・制御から地球環境問題まで」

#### 大学院総合文化研究科・教養学部

川口 昭彦 教授 3月15日(金)15:00~17:00

（生命・認知科学科）教養学部視聴覚ホール  
「脂肪酸とともに歩む」

## 十倉好紀教授が「強相関電子物質の研究」で朝日賞を受賞

毎年、学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化・社会の発展や向上に多大な貢献を果たした個人、団体に贈られる朝日賞を本専攻の十倉好紀教授が受賞されました。

十倉教授は、本学科での学生時代より、電子の振る舞いに起因する物性を、物理的な立場から統一的に研究されてきています。

特に、有機物の光物性の研究における光と電子の相互

作用、高温超伝導物質における電子・正孔の役割解明に基づく新しいタイプの高温超伝導物質の発見、さらに、最近ではマンガン酸化物における電気伝導と磁気秩序、軌道秩序の関連する新しい電子物性の発見で世界の注目を集め、さらにその機構解明や応用に向けて精力的な研究を進められています。特に、わずかな磁場変化で電気抵抗が100万倍も変わる巨大磁気抵抗現象を発見され、その応用が期待されています。

このように、高温超伝導や光物性、磁性などいろいろな物質の性質を、電子の相関の立場から統一的に理解しようとする「強相関電子物性」の世界的リーダーとして本専攻のCOE推進はじめ、アトムテクノロジー研究体、創造科学技術推進事業「スピン超構造」で活躍されています。

昨年度の朝日賞は物性関係では「青色発光素子の研究と開発」で、赤崎勇氏、中村修二氏が受賞されており、本年は十倉教授の他に、「MnB<sub>2</sub>の新しい高温金属超伝導体の発見」により秋光 純氏が受賞されています。

21世紀の新しい科学の方向として、これまで単独の「電子」描像に帰着させてきた物質中の電子集合の性質に対し、量子力学的な相互作用に基づく相関現象による現象の物理学的理解へますますの研究の重要性を示しているのではないのでしょうか。

(大学院工学系研究科・工学部)

### 五神真教授が「非線形レーザー分光を用いた励起子の量子統計性の研究」で日本IBM科学賞を受賞

五神教授は、次世代の超高速エレクトロニクスや量子情報技術における光と電子系のインターフェイスの担い手として注目されている励起子物理を様々なレーザー分光を駆使して開拓し、量子光学的操作の基礎となる非線形光学応答においてすばらしい成果をあげられています。特に、励起子の非線形性の起源をボゾンモデルを用いて解明したこと、励起子モット転移を用いて直接遷移型半導体で初めて電子正孔液滴を見いだしたことなどが高く評価されています。

(大学院工学系研究科・工学部)

### 史料編さん所の特別展入場者は6万4000人

史料編さん所では、史料集発刊100周年記念事業として、『東京大学史料編纂所史料集』を編さん刊行し、国際シンポジウム「歴史学と史料研究」と特別展を開催した。このうち、特別展「時を超えて語るもの―史料と美術の名宝―」(於東京国立博物館、34日間)は、1月27日に閉幕し、総入場者は6万3789人となった。国立博物館が行った入場者へのアンケート結果がこのほどまとめられ、ほぼ90%の方から「とても良い」「良い」の高

い評価を受けたことがわかった。アンケートには、「有名な教科書などで見たすごいものが目の前で見られた」(10代、高校生)、「東大にこんなたくさん貴重なものがあつたとは知りませんでした。普通見ることができないものを目にしたことはうれしい」(40代、主婦)、「(良かったことは)東大の保存史料を国博の広いスペースを使い一般に開放したことです。このような形でもっと国民的資産を社会還元すべきです」(60代、教員)、「豊富な史料、保存、解説。貴重な資料にお目にかかれて満足。歴史は面白い」(70代、主婦)など、さまざまな意見と感想が寄せられた。

(史料編さん所)

### 生産技術研究所で平成13年度外国人研究者・留学生との懇談会が開かれる

平成14年1月25日(金)午後6時から、駒場エミナース「鳳凰の間」において、上記懇談会が開催された。この催しは、生産技術研究所の外国人研究者・留学生及び教職員の相互理解と文化交流を深めることを目的として、昭和59年3月から毎年開かれている。

今回は、市川保子教授(留学生センター長代理)を迎え、19カ国・地域の外国人研究者・留学生(家族を含む)とその受入れ教官及び担当職員136名が参加した。

朱世杰助教授(国際交流室員・第4部)の司会進行で、坂内正夫所長のユーモア溢れる挨拶に続き、木下 健教授(国際交流室長・第2部)の乾杯発声で、歓談の輪が広がった。

留学生センターを代表して、市川教授から来賓のご挨拶を頂戴して、和やかな中、会はずめられた。

恒例となっている各国の伝統・文化の一端を披露いただいているアトラクションは、中国の琵琶楽器演奏、深い歴史と伝統に支えられたモンゴリア族の踊り、竹笛楽器等による演奏、中国の祝酒歌の合奏などが紹介され、文化交流の一翼を担う、大変貴重な時間を共有した。

記念集合写真撮影、そして本会を担当した香川 豊教授(第4部主任)の閉会挨拶が行われ、名残惜しい雰囲気の中、午後8時過ぎに散会した。



坂内所長の挨拶



モンゴリア族の踊りに見入る参加者達

(生産技術研究所)

## 工学部武田先端知ビル地点の発掘調査

### —明治時代の射的場跡と弥生時代の方形周溝墓—

原 祐一 (東京大学埋蔵文化財調査室)

はじめに

浅野地区は、最初の弥生式土器が発見された「向ヶ丘弥生町」の一角に位置する。1975年、文学部考古学研究室、理学部文化人類学教室が行った弥生二丁目遺跡で確認された弥生時代の集落跡、95年埋蔵文化財調査室の調査で確認された方形周溝墓は遺跡の重要性から現地保存されている<sup>(註1)</sup>。浅野地区の北側、言問い通り沿いには、地元弥生町会によって建てられた「弥生式土器発掘ゆかりの地」の記念碑があり、谷中・根津・千駄木の観光案内や司馬遼太郎の「街道を行く」でも紹介されており、一般の関心も高い。

昨年6月、浅野地区で2003年完成予定の、(仮称)工学部武田先端知ビルの建築に伴う発掘調査を行うことになった。昭和30年代以降の大学建築による掘削と、明治初期の遺跡周辺の射的場造営と、その後の宅地化による大規模開発が調査の進展によって明らかになったことから、遺跡が失われたと予想した。しかし、方形周溝墓は低温センターの北側、現地表面から地下3m以下の谷跡に位置していたことから、現在まで破壊を免れた。

今回の調査では、学内を中心とするの自然科学系の研究者も調査に参加していただき、総合的な遺跡の検討を行った<sup>(註2)</sup>。また、方形周溝墓の保存と土器の修復が決定し、現在、保存作業を行っている。

### 1. 明治時代の調査地点周辺と射的場跡

浅野地区と農学部、本郷地区の一部は江戸時代、水戸藩邸であった。明治初年の地籍図によれば、陸軍省鎮台、警視局御用地射的場、東京共同射的会社、弥生舎<sup>(註3)</sup>等の記載がある。明治20年、現在の文京区弥生二丁目と一丁目の一部が、浅野地区の名称の由来になった浅野侯爵の屋敷地(浅野邸)に払下げられ、徐々に宅地化していっ

た。その後、昭和16年から18年にかけて大学敷地となり現在に至る。

今回の調査で警視局射的場出入口(SD02遺構)を検出し、着弾によって変形した弾丸が出土した。出入口はスロープで地下へ伸びていた。角材を配し、砂を撒くなどの滑り止めが施されていた。地籍図によれば、射的場の主要部分は地下構造で、射的場を取り囲む土手が防護壁として築かれていた。出入口の埋土には異なる層位の関東ローム層等が使用されていること、地籍図による掘削土と土手の土量の比較から、掘削土によって土手が築かれ、廃絶に伴ない土手を崩し埋めたと考えられる。調査地点の関東ローム層の堆積を分析したところ、旧地形が削平されていることが明らかになった(仮称農学部総合研究棟地点でも確認されている)。浅野邸建物跡は、この削平後構築されていることから、射的場廃絶の際の、土量不足を周辺部の削平によって補ったと考えられる。

「警視局射的場」の存続期間などは明確ではないが、明治9年に着工したとされ、西南戦争(同10年2月～9月)の1ヶ月前の明治10年1月に落成している。西南戦争では、東京警視本署の警察官総勢9,500人が九州などに派遣されており、射的場造営は社会情勢と無縁でなく、弥生町で小銃等を使用した演習が行なわれたと考えられる。射的場は土族の反乱の沈静化と共に民間に払い下げられ、その役割を終え宅地化したと考えられる。

### 2. 方形周溝墓、弥生式土器、ガラス玉の材質分析

方形周溝墓とは弥生時代、古墳時代初期にみられる墓で、墓域を溝(周溝)で方形に区画し、中に1基から数基の墓穴(土壙)があり、集団墓地を形成するものが多いといわれる。検出した1号方形周溝墓の規模は約6m×6mで、4本の単独の周溝と、中央の土壙1基からなる。また、この墓の北側で2号方形周溝墓を検出した。

写真の土器は弥生時代後期のもので、周溝上部から出土した。器高約40cm、口径約20cm、胴部径約33cmである。土器外面と口縁部内面には赤色顔料(ベンガラ)が塗布されていた(総合研究博物館年代測定室による)。

ガラス小玉と石製管玉は土壙の北側で集中して出土した。首飾りなどの副葬品と考えられるが、人骨は確認できなかった。ガラスビーズの色調と点数は、紺色(22点)と青色(2点)、石製管玉は赤色(4点)である。これらの材質分析は原子力研究総合センタータンデム加速器研究部門でPIXE分析法(荷電粒子励起X線分析Particle Induced X-ray Emission)によって行った<sup>(註4)</sup>。分析の結果、ガラス小玉は主成分、着色成分ともに典型的な弥生時代のガラス材質で、主成分は、色調にかかわらずSiO<sub>2</sub>77～84wt%(重量パーセント)、K<sub>2</sub>O6～11wt%でNa、Ca濃度が極めて低い典型的なカリ石灰ガラスで、サイズの差異にかかわらず同様の濃度を示した。ガラス玉の着色成分は、紺色ではMnO<sub>1.3</sub>～3wt%、青色ではCuO1.0、1.9wt%となった。青色ではMoOが検出限界に近く極めて低く、紺色ではCuOがほぼ検出限界値以下であった。

まとめ

今回の調査と75年、95年の調査によって、高台の集落と、低地部に展開する墓域という弥生町遺跡の状況が明らかになってきた。今後、調査報告書、調査室紀要の中で調査研究成果の公表を予定している。

今回、明治期以降の遺跡周辺の削平が明らかになった。最初に発見された弥生式土器の発見地点は、その後の調査、回想録、発見者の学問的立場や人間関係等から特定されてきたが、現在も明確でないという。その要因の一つとして、旧地形の大規模な改変と急速な都市化をあげたい。浅野地区では昭和30年代以降、大学建設によって遺跡が破壊されたとされるが、調査地点東の道路地下に方形周溝墓、弥生二丁目遺跡周辺の道路及び空地部分に弥生時代の集落が残されている可能性を指摘したい。

遺跡の一般公開と方形周溝墓の保存

遺跡の一般公開を4回行った。学内外から延べ400名以上の参加があった。また、発掘調査速報を42号まで発行し発掘現場に掲示した。平成13年12月15日、原子力総合研究センター、総合研究博物館、埋蔵文化財調査室主催で行った、第3回考古科学シンポジウムで、遺物の展示、研究成果の公開を行った。

方形周溝墓は、最初の弥生式土器が「弥生町」で確認された歴史的価値、近隣住民の関心の高さ、浅野地区で調査を行った弥生時代の遺跡は、すべて現地保存されてきた経緯から、埋蔵文化財委員会で協議した結果、接着取上げ工法（遺構表面の土層表面を剥ぎ取り、強化合成樹脂で裏打ちし展示資料とする工法）による保存が決定した。浅野地区には、弥生遺跡が存在する可能性があり、今後の調査は、建築サイドとの学内協議、調査研究体制の確立がこれまでに必要であろう。2004年は明治17年の弥生土器発見から120周年を迎える。出土遺物の公開など有効利用を検討していきたい<sup>注5</sup>。

注

- 1) 東京大学文学部考古学研究室編1979『向ヶ丘貝塚』  
 鮫島和大1997「3工学部全径間風洞実験室新営支障ケーブル移設その他に伴う埋蔵文化財発掘調査略報」  
 東京大学埋蔵文化財調査室 東京大学構内遺跡調査研究年報2 PP41-43
- 2) 弥生町遺跡について一篠原和大（静岡大学）、土壌分析—橋本真紀夫(株)バリノ・サーヴェイ、年代測定—吉田邦夫（総合研究博物館年代測定室）小林紘一(株)加速器分析研究所、土器の紋様・玉類の孔—丑野毅（総合文化研究科）、ガラス小玉の分析—小泉好延（武蔵野文化財修復研究所）原祐一他、弾丸の分析—峯田元治、「考古科学・ケーススタディー—東京大学弥生構内の方形周溝墓の総合的な研究」2001東京大学原子力研究総合センター、総合研究博物館、埋蔵文化財調査室 第3回考古科学シンポジウム発表要旨
- 3) 「弥生舎 無菌全乳」刻印のガラス瓶が出土した。
- 4) 小泉好延、小林紘一、原祐一他「東京大学弥生構内

武田先端知ビル出土のガラス玉材質分析—典型的な弥生ガラス—」第3回考古科学シンポジウム発表要旨PP 93-97

5) 駒場Ⅱリサーチキャンパスオープンキャンパスにおいて一般公開を予定している。



発掘調査速報の掲示



SD02遺構出土弾丸（ミニエー銃）



弥生舎無菌全乳瓶

≡ 掲示板 ≡

東京大学学位論文論題データベースの統合について

情報基盤センター図書館電子化部門では、このたび「東京大学学位論文論題データベース」（昭和32年以降の本学学位論文書誌情報を収録）と「東京大学学位論文要旨データベース」（平成8年度から10年度の本学学位論文書誌情報とその要旨を収録）を統合し、「東京大学学位論文データベース」として2月6日より新たに公開しました（検索・表示のインターフェイスは「要旨データベース」のインターフェイスを引き継いでいます）。

これまででは本学の学位論文情報を検索する際、二つのデータベースの切り替えが必要でしたが、今回の統合によりその不便が解消され、より効率的に検索できるようになりました。

なお要旨も見られるデータは従来通り平成8年度から10年度の範囲ですが、この範囲も徐々に広げていく予定です。

URL <http://gakui.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>



要旨付き（平成8年度～10年度）の表示

保健センター業務日程の変更について

春季休業および新入生・留学生健診に伴い、下記の期間、診療等の業務を一時中止いたします。

- 本郷支所 平成14年 3月11日(月)から  
平成14年 4月5日(金)まで  
(但し、精神科は3月12日(火)から4月8日(月)まで)
- 駒場支所 平成14年 3月18日(月)から  
平成14年 4月8日(月)まで
- 柏健康相談室 平成14年 3月11日(月)から  
平成14年 4月5日(金)まで



要旨なし（昭和34度～平成7年度）の表示

「窓」コーナー

東京大学と社会との連携・協力情報を幅広く紹介するための、コーナー「窓」を設けています。  
掲載協力をよろしくお願いいたしました。

≡ 窓 ≡

## 弥 生 町 の 歴 史

(前略)

ご承知の通り、旧向ヶ丘弥生町は江戸時代、御三家水戸藩の邸地でありました。明治二年新政府に収用され、同五年町屋ができて、向ヶ丘弥生町と名付けられました。

町名の謂れは、文政十一年(一八二八)三月十日、水戸家九代徳川斉昭が庭中に建てた歌碑から採られました。

名にしおふ  
春に向ふが岡なれば  
世にたぐひなき  
はなの影かな

また、明治十七年、向ヶ丘貝塚から東京大学の学生三人によって発見された土器は、弥生式土器と地名に因んで命名されました。現在、弥生式土器の発祥地として全国に知られています。

昭和三十九年十二月、行政側の一時的な町名整理によって、向ヶ丘弥生町の一部が根津一丁目に編入される事態となりましたが、弥生町住民の熱心な地名保存運動により、昭和四十二年一月弥生二丁目に復し弥生の地名が守られました。この由緒ある地名存続のため、ご理解ご支援を賜りました方々のお力添えをここに改めて感謝申し上げます次第です。

奇しくも「弥生式土器発掘ゆかりの地」の記念碑の隣接地より、昨年七月、東京大学工学部大形構造物実験室(跡

地)の、武田先端知ビル建設地下工事現場を発掘調査の結果、弥生時代の埋葬施設である「方形周溝墓」が発見され、遺構から弥生式土器やガラスビーズ、管玉が出土しました。

かつて、東京大学の旧敷地は、江戸時代は加賀藩邸、水戸藩邸、小笠原藩邸と考えられますが、明治時代初期は陸軍用地、警視局用地、第一高等学校用地、浅野邸地となり順次周辺部が宅地化しました。

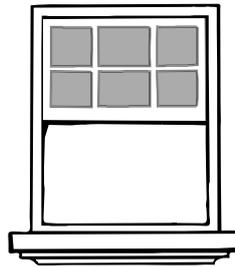
今回、東京大学埋蔵文化財調査室のご好意で、弥生町の住民に発掘現場の見学と説明会が行われました。

私達住民に大変有意義な機会をご提供下さいました東京大学調査室に心より感謝申し上げます。

私達の居住している場所が、数千年の昔より人々が環濠集落を作って稲作を始め、江戸時代以降は日本文化の中心地として今日に至っていることを想うとき、これからもこの輝かしい郷土の歴史を忘れず環境を守り、新しい時代に適応した町創りに、皆様の一層のご理解とご協力をお願いしたいと思う次第です。(後略)

(文京区弥生町町会長 鈴木 健之)

★ 文京区弥生町の広報誌『弥生』第435号「新年のご挨拶」の一部を転載許可されたものである。



≪ 事務連絡 ≫

## 人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 2. 16	西 村 吉 雄	(採 用) 大学院工学系研究科教授	株式会社 日経ビーピー編集担当付編集委員

## 人 事 異 動 (職 員)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 2. 16	津布久 和 男	医科学研究所管理課課長補佐	教養学部等経理課専門員 (企画調整担当)

## 近代医科学記念館雑感

医科学研究所は白金台キャンパスにあるが、そこに近代医科学記念館（Medical Science Museum）という厩をモチーフにした建物ができあがり、その開設記念式典が12月5日に行われた。そこには伝染病研究所から現在の医科研に至るまでの医科学の歴史と挑戦が展示され一般に公開されている。

伝染病研究所は1892年（明治25年）に北里柴三郎が、福沢諭吉らの支援を受けて大日本私立衛生会附属伝染病研究所としてスタートした。その後、1899年に内務省所管国立伝染病研究所となった。野口英世や赤痢菌（毒素はO157と同じ）を発見した志賀潔もこの研究所の出身者である。しかし、1914年、伝染病研究所が文部省所管となり東京帝国大学に附置されることを突然に聞かされた初代所長北里は「學藝ノ府ニ隸屬セシムルニ於テ到底完全ニソノ目的ヲ遂行スル能ワザル火ヲ賭ルヨリモ明ナリ」と書き記し、北里一門は総辞職をした。そして北里は、現在の北里研究所を創立し、また福沢諭吉の依頼で慶応義塾大学に医学部を作り初代医学部長となった。気性の激しい「肥後もっこす」である。



1916年、東京帝国大学に附置されたが伝研の予算は東大の特別会計に入れられ、すなわち予算0円で研究所が運営されていた。すなわち研究費を自活した。第二次世界大戦後、この伝研は占領軍および厚生省の方針で予防衛生研究所と伝研に分割された。こんな歴史を経ながら展開されてきた医科学の研究が資料とともに展示されている。

研究所の担っている役割は、この近代医科学記念館の歴史にあるものと現在ではずいぶんと違っている。大学院教育にコミットするようになったこともその一つである。学部を根を張った部局が研究所をうまく活用したといえる。一方で、研究所のミッションと意志によってドライブされるような大学院システムの必要性も強く感じている。私の専門はバイオインフォマティクスであるが、この発展は1991年に始まったヒトゲノム計画とその一部を担ったいくつかの研究所の存在なしには考えられない。やがて東京大学も独立法人化を迎えるが、東京大学が研究所群のもつ人材・設備を大学院システムをとおして人材養成に積極的に活用しなければ、法人経営として不作為の責任を免れないだろう。

（医科学研究所 宮野 悟）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

[次号の原稿締切]

3月6日（水）午後5時

[訂正]

「学内広報」No. 1229（2002. 2. 14）において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

11ページ左側10行目

（誤）公共授業 → （正）公共事業

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1231

2002年2月27日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm. u-tokyo. ac. jp

ホームページ <http://www. u-tokyo. ac. jp. inde. x-j. html>